

五稜会病院 広報誌第80号

令和5年晩秋～令和6年初春



令和5年11月の五稜会病院です。東側の救急の入り口からの写真です。紅葉で銀杏が黄色くなっています。ソテリアが配布の時期には、雪景色になっています。

令和5年5月8日、新型コロナウイルス感染症は、これまで「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」において「新型インフルエンザ等感染症」として位置づけられていましたが、「5類感染症」に位置づけられました。5類になったことで、コロナ禍以前のような経済活動を再開できる、感染してしまった際にかかりつけ医など一般の診療施設で受診できるなどの利点がある一方で、感染してしまった際の治療費が有料になることや感染時の各生命保険会社の給付金が対象外になるなどの不利益になることもあります。と言っても、会食なども対面で出来るようになったことは喜ばしいことです。学会、研究会も対面形式に戻ってきています。観光客も増えてきました。コロナ禍以前の水準になっているようです。巷では、ノーマスク姿が多くなってきています。

五稜会病院では、病院という性質上は感染予防のためにしばらくはマスク着用で行きたいと思えます。

医療法人社団五稜会病院理事長・院長：中島公博

五稜会病院の理念

情熱と個々への配慮

- 1 患者さんの病前の社会背景と病状を理解し、個々を尊重する治療に努める。
- 2 医療の情報開示を行い、患者さんとの信頼関係を大切に医療を行う。
- 3 地域医療連携を密にし、精神科・心療内科の基幹病院としての役割を担う。
- 4 臨床研究を行いながら、優れた医療人の育成に努める。

学会・研究発表

五稜会病院では、最新の医療を提供出来るように、日々研鑽しております。例年、札幌市病院学会、北海道病院学会、日本精神科医学会学術大会などの地方会、全国学会、研究会へ積極的に参加しています。

御 案 内

最近は、オンラインから対面での学会になっています。

学会・研究会

★第12回日本精神科医学会学術大会(熊本)

令和5年10月12・13日

「精神科病院における虐待に関連して知っておくべき知識」

中島公博

「長期にわたり遷延した神経性過食症が家族の理解を得て改善した症例」

藤井美緒

「引きこもり傾向がある患者の地域移行の経過について」

安達佳代

「当院看護師の教育体制の認識調査

～職業キャリア成熟尺度を用いて～

安藤留美

★第35回東京精神科病院協会学会(東京)

令和5年10月24日

「精神科病院における虐待防止の取組に関して」

中島公博

★第49回日本心身医学会北海道支部例会

令和6年2月18日

「自閉症スペクトラム傾向が感情制御困難とACTの要素を介して抑うつに及ぼす影響」

木谷俊喬

★第49回日札幌市医師会医学会

令和6年2月18日

「民間の単科精神科病院における虐待防止のための取組」

中島公博

論文・エッセイのご紹介

「時評：令和5年4月、改正精神保健福祉法施行」

中島公博 日精協誌 2023(4)

「精神保健福祉法改正に伴う虐待防止研修会用

コンテンツの作成」 中島公博 日精協ニュース 2023(6)

患者さんの権利綱領

五稜会病院の職員は、患者さんの次の権利を順守して日々の医療を行います。

- 1 安全で適正な医療を公平・平等に受ける権利
- 2 個人の生き方、信条、尊厳などが尊重される権利
- 3 病状、検査結果、治療方法・結果などについて、納得のいく説明を受ける権利
- 4 十分な説明や情報提供のもとで、どのような医療を受けるかを選択する権利
- 5 如何なる不利益を受けることなく、検査・治療などを拒否する権利
- 6 希望によりセカンドオピニオン（他の医師の意見を聴くこと）を受ける権利
- 7 如何なる場合も、個人情報やプライバシーが守られる権利

当院の復職支援デイケア リワーク ヴィレッジが 日本うつ病リワーク協会 認定施設

として承認されました！

この度、当院の復職支援デイケア リワーク ヴィレッジが「日本うつ病リワーク協会」の審査に合格し、日本で 14 番目の認定施設として正式に認定されました。

2023 年 11 月現在、東北以北では認定施設は 2 か所しかなく、しかもその 2 か所は北海道（札幌）のみとなっています。

先日、上記協会の理事とお会いした際に、『再度審査員が来院する補充審査がなく審査に通った施設は久しぶりで、しかも 2 日目の審査がなく 1 日目で終了した施設は史上初』という情報をいただきました。

この施設認定制度は、リワークプログラムとして適切な支援となっているのかを、客観的な視点で審査、確認を行うことで、質の高いプログラムを提唱していくことが目的です。

この認定を受けたことで診療報酬が上がったり、別途加算がついたりということは（今のところは）ありませんが、患者さんに安心して通っていただけるリワーク施設であるという証だと思っています。

今回の施設認定取得には、本当に多くの方のご協力、サポートをいただきました。決してデイケアだけで取得したものではなく、病院全体で取得した認定だと思っています。

また同日、当院デイケアの作業療法士が『日本うつ病リワーク協会指導スタッフ』の認定を受けました。当院では 2 人目となります。これは「リワークスタッフとして必要な視点や研修を修めたスタッフ」という認定です。

これらの認定に満足することなく、今後も当院のリワークに通っていただいている方々に、

より良いプログラムを提供できるよう日々精進していきたいと思っております。

（デイケア 清水 陽平）



第25回 日本ストレスケア病棟研究会

10月28日に大阪府で開催されました。日本ストレスケア病棟研究会とは、うつ病を中心としたストレスケア関連疾患に対して治療を行う病棟を持つ病院による研究会です。日本各地の病院が参加し、当院も参加しました。

今回は「うつ病のリカバリーを考える」をテーマに、教授による講演や、「ストレスケア病棟の課題と今後の展望」についてのパネルディスカッション、事例検討等が行われました。近年はIT化や生活環境の変化、個性や多様化を大切にする風潮といった社会の変化が個人にとって大きなストレスとなっていることが要因となり、うつ病が増加しています。国の政策の一つとしてもメンタルヘルスが挙げられており、ストレスケア病棟が果たす役割も大きなものであると考えられます。今後ともスタッフ一丸となり精進してまいりますので、よろしくお願いいたします。

(看護師 大野 麻理)



5th GMC ART COLLECTION since2018

11月25日、5回目となるアートコレクションを開催しました。当院のアートコレクションは外来通院されている方、入院中の方、職員が絵画や手芸などを出展する展示会です。出展数は前回より少なかったですが、数に負けないくらい素晴らしい作品が沢山ありました。来場者数は、午前中の荒天のせいか伸び悩み



ましたが、観覧した方はそれぞれ感銘を受けていたようでした。また、第5回の節目の開催ということもあり、第1回からの歴代のポスターを入口と会場内に展示しました。

(管理課 松田 雄介)

最近の精神科医療政策のご紹介

★医療DX デジタルトランスメーション★

政府は、令和4年10月12日より医療DX推進本部を立ち上げ、

1. 「全国医療情報プラットフォームの創設」
2. 「電子カルテ情報の標準化等」
3. 「診療報酬改定DX」

これを3本柱としているということです。

医療DX工程表をとりまとめたことを踏まえ岸田総理大臣は、

- ① 全国医療情報プラットフォームについては、今年度より電子カルテ情報の共有システムの開発に着手するとともに、介護情報等についても順次共有できるようにする。
- ② クラウドベースの標準型電子カルテを開発し、遅くとも2030年には概ね全ての医療機関において、医療情報を共有できることを目指す。
- ③ 診療報酬改定DXについては、診療報酬と患者負担の統一的な計算プログラムである共通算定モジュールを開発し、2026年度より本格的に提供する」と述べています。

電子カルテ情報の標準化には、共有する情報

3文書:診療情報提供書・退院時サマリー・健診結果報告書、
6情報:傷病名・アレルギー・感染症・薬剤禁忌・検査・処方の統一化とHL7fhir（世界標準の規格）に準拠した標準型電子カルテの普及が必要になります。

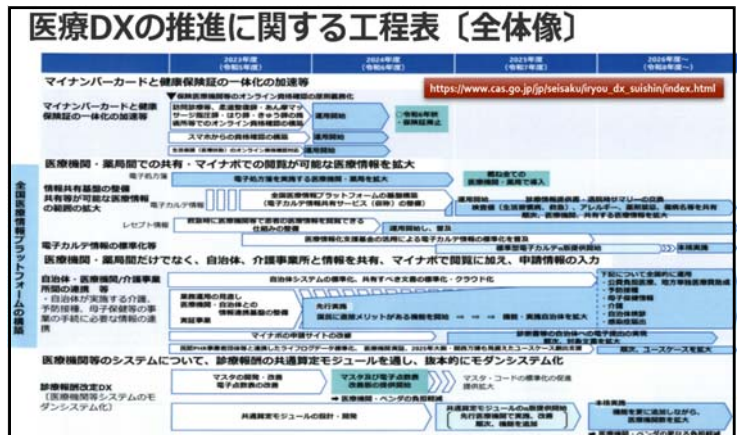
令和5年12月14日には、厚生労働省の第1回標準型電子カルテ検討ワーキンググループが開催され、中島公博が出席致します。

医療DXにより実現される社会 厚生労働大臣提出資料

世界に先駆けて少子化等が進んでいる我が国において、特に国民一人一人の健康寿命の延伸、医療現場における業務効率化の促進、医療等の各種サービスの効率的、効果的な提供を行っていく上で、医療DXの取組を進めていくことは不可避

- ▶ 誕生から現在までの生涯にわたる保健医療データが自分自身で一元的に把握可能となることにより、個人の健康増進に資する
 - 自分で記憶していない検査結果情報、アレルギー情報等が可視化され、将来も安全・安心な受療が可能【PHRのさらなる推進】
- ▶ 本人同意の下で、全国の医療機関等が必要な診療情報を共有することにより、切れ目なく質の高い医療の受療が可能【オンライン貴族情報等システムの拡充、電子カルテ情報の標準化等、レシポ情報の活用】
 - 災害や次の感染症危機を念め、全国いつどの医療機関等にかかっても、必要な医療情報が共有
- ▶ デジタル化による医療現場における業務の効率化、人材の有効活用【診療報酬改定に関するDXの取組の推進等】
 - 次の感染症危機において、必要な情報を迅速かつ確実に取得できるとともに、医療現場における情報入力等の負担を軽減し、診療報酬改定に関する作業の効率化により、医療従事者のみならず、医療情報システムに関与する人材の有効活用、費用の低減を実現することで、医療保険制度全体の運営コストを削減できる
- ▶ 保健医療データの二次利用による創薬、治験等の医薬産業やヘルスケア産業の振興【医療情報の利活用の環境整備】
 - 産業振興により、結果として国民の健康寿命の延伸に資する

医療DX推進本部(第1回)加藤勝信 厚生労働大臣



**当院は患者さん本位の医療を提供しようと
考えております。
お気づきの点はご相談下さい。**

治験のご協力をお願い

現在、当院では「統合失調症」「小児統合失調症」に対する薬剤の臨床治験を行っています。創薬(薬を創り出す)は国家戦略の一部です。臨床治験を行わないと、良い薬を世の中に出すことは出来ません。参加される方には負担軽減としての費用を差し上げています。

統合失調症とは

統合失調症は、現実とのつながりの喪失、幻覚(通常は幻聴)、妄想(誤った強い思い込み)、異常な思考や行動、感情表現の減少、意欲の低下、精神機能(認知機能)の低下、日常生活(仕事、対人関係、身の回りの管理など)の問題を特徴とする精神障害です。

IRB(治験審査委員会)

治験を実施する際に、倫理性に問題がないか、治験参加者の「人権」と「安全性」に問題が無いかなど、治験の倫理性、安全性、科学的妥当性を審査する組織です。五稜会病院では、月に1回開催しています。

五稜会病院 概要

標榜科名: 精神科・心療内科・内科・消化器科

病床数	193床		
急性期病棟	48床		
ストレスケア・思春期病棟	48床		
療養病棟A	49床		
療養病棟B	48床		
従業員数	約230名		
医師数 常勤	11名	非常勤	6名
看護師	83名	准看護師	9名
薬剤師	3名		
臨床検査技師	1名	非常勤	4名
臨床心理士	11名	(公認心理師)	9名
作業療法士	10名	スポーツインストラクター	5名
精神保健福祉士	9名	管理栄養士	2名

五稜会病院沿革

開設	昭和47年(1972年)
医療法人開設	平成2年(1990年)

編集後記

新型コロナはもうたくさん。でも5類になって対面での食事ができるようになったり、コミュニケーションの場が増えて良かったです。宴会も出来るようになるかもです。ノコミュニケーションも大事ですね(K.N)

発行: 令和5年11月25日

〒002-8029

札幌市北区篠路9条6丁目2-3



発行責任者: 広報委員 松田雄介・中島公博
 電話: 011-771-5660
<https://www.goryokai.com>
 mail: GMC@goryokai.com